

2011 年度日本海洋学会青い海助成事業震災対応特別枠 助成事業  
「三陸沿岸生態系に対する大津波の影響と回復過程に関する  
研究報告会の開催」事業報告書

平成 24 年 2 月 24 日

事業代表者

東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター沿岸保全分野 助教 福田秀樹

<要約>

岩手県沿岸部の中央付近に位置する大槌湾は、2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う地盤沈下と大津波の襲来により物理的な破壊を受けた。湾奥部での海岸線の変化、港湾施設の破壊、陸上から海中へ引き込まれていった大量の瓦礫など、目に見える破壊の傷跡は、漁業を中心的な産業とする地域の人々に大きな不安を与えている。これらの破壊が沿岸生態系にもたらした被害の程度とその後の回復状況に関する情報は、長く続く復興への道のりに不安を覚える被災地域の人々に強く求められているものであると思われる。しかしながら震災以降に三陸沿岸部で進行中の研究課題が論文や報告書として公表されるまでに要される期間は、復興に向けて動き始めた社会の動きに比して長すぎるものであると思われる。そこで本事業により大槌湾周辺で様々な研究機関により進行している研究課題の経過を地域の人々に知っていただくための研究報告会を開催した。研究報告会は大槌町と共同で同年 12 月 17 日に町内で最大の規模を持つ中央公民館にて行われ、6 機関に所属する研究者により 11 の話題が提供された。本研究集会には大槌湾に隣接する大槌町、釜石市からだけでなく、盛岡市や北上市など、周辺地域に在住の一般の方の来場があったほか、岩手県内外の行政・研究関係者の来場もあり、震災以降の三陸沿岸部の状況について活発な意見の交換が行われた。また講演者の中で協力していただける方には講演内容を紹介する記事を書いていただき、これらを研究集会に参加できなかった方々に知っていただけるよう Web ページ上で公開した。

<研究報告会情報 プログラム>

三陸沿岸生態系に対する大津波の影響と回復過程に関する研究報告会

日時：平成 23 年 12 月 17 日（土）13:00～17:30

場所：大槌町役場 中央公民館（〒028-1121 岩手県上閉伊郡大槌町小槌第 32 地割 126  
TEL 0193-42-3030)

代表者：福田秀樹（東京大学大気海洋研究所）

主催：東京大学大気海洋研究所・大槌町、後援：2011 年度日本海洋学会青い海助成事業

13:00～13:15 開会挨拶

碓川 豊 大槌町長

大竹二雄（東大大気海洋研）

13:15～14:45 第1セッション（座長：大竹二雄）

1. 釜石湾の湾口防波堤と海洋環境 ー津波前後の比較ー  
道田豊・○田中 潔（東大大気海洋研）・加賀新之助（岩手県水産技術センター）・  
小家琢磨（東大大気海洋研）
2. 震災以降の大槌湾の栄養塩類と植物プランクトンの分布について  
○福田秀樹・片山僚介・永田 俊（東大大気海洋研）
3. 津波後の動物プランクトン調査  
○伊佐見 啓・津田 敦（東大大気海洋研）
4. 大津波による大槌湾・船越湾の底質・底生生物への影響  
清家弘治（港湾空港技研）・○白井厚太郎・小暮潔央（東大大気海洋研）
5. 大槌湾の海藻植生  
○林崎健一・小河久朗（北里大）
6. 大槌湾および船越湾の藻場に及ぼした大津波の影響  
○小松輝久・大瀧敬由（東大大気海洋研）

14:45～14:55 第一セッション質疑応答

14:55～15:10 休憩

15:10～16:25 第2セッション（座長：福田秀樹）

7. 磯のアワビやウニは津波でどうなったのか？これからどうなるのか  
○河村知彦（東大大気海洋研）・高見秀輝（東北水研）
8. 大槌町周辺のアマモ場における魚類の生息状況  
○小路 淳（広島大）
9. 宮古湾で生まれたニシン仔稚魚の生息環境  
○山根広大・大竹二雄（東大大気海洋研）
10. 平成の三陸大津波とアユ  
畑 正好・○大竹二雄（東大大気海洋研）
11. 震災後に行った資源調査から得られた沿岸資源の現状  
○後藤友明（岩手県水技センター）

16:25～16:35 第二セッション質疑応答

16:35～16:50 休憩

16:50～17:20 総合討論・意見交換（座長：福田秀樹）

17:20～17:30 閉会挨拶  
福田秀樹（東大大気海洋研）

<研究報告会について>

本研究報告会の実施に先立ち、広報用のポスターを 300 部作成した（資料 1）。作成したポスターは大槌町および釜石市内の商業施設および大槌湾で操業する大槌・釜石東部の両漁業組合に掲示を依頼したほか、大槌町役場には町内各地の仮設住宅団地の掲示板に掲示していただいた。また岩手県庁科学・ものづくり振興課の方々が岩手県庁の HP 内で告知を行って下さった。

研究報告会では釜石湾の循環過程が受けた影響や栄養塩類など、物理・化学的な環境に関する話題から、アワビや海藻、魚類などの一般の方々と漁業関係者の方々にも身近と考えられる生物的な話題など、三陸沿岸部の生態系に関する様々な分野の話題を講演者に提供していただいた。研究集会には 17 名の青森・岩手・宮城の行政・研究関係の方々の参加があったほか、上記三県以外の大学関係者 16 名、岩手県内より 3 名の一般の方、3 名のマスコミ関係者が参加した。当日の様子は 12 月 18 日付の岩手日報で紹介されている（資料 2）。質疑応答や総合討論の場では行政・研究関係者により活発な意見交換が行われたが、一般の方々の参加が少なかったことに関しても議論がなされ、やや硬かった研究集会の表題の付け方や、出店や他の展示物の設置など、集客方法などについても意見を述べ合った。ここ大槌湾では今後も東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターの共同利用研究をはじめとする様々な研究活動が盛んに行われていくことから、今後も一般向けの広報活動を継続していくことの重要性が確認され、大槌町の広報誌、「広報おおつち」の利用などについても議論された。本研究集会の内容については協力を頂いた 8 題の講演者の講演要旨を Web ページ上で公開し、今後も様々な方に閲覧していただけるよう整備した。

URL: [http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/aori\\_news/meeting/2011/20111217.html](http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/aori_news/meeting/2011/20111217.html)

本報告書では講演内容については紹介しないが、興味のある方はこちらを参照してほしい。

## 三陸沿岸生態系に対する大津波の影響と 回復過程に関する研究報告会

主催：東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター・大槌町

**入場無料（事前申し込み不要）**

日時：平成23年12月17日（土）13:00～17:30

場所：大槌町城山中央公民館 大会議室

問い合わせ：東京大学大気海洋研究所 福田秀樹

TEL:04-7136-6085 E-mail: hfukuda@aori.u-tokyo.ac.jp

大津波の襲来以後、大槌湾を含む三陸沿岸では被害を受けた生態系に対する様々な調査が開始されました。調査はまだ緒に就いたばかりですが、その内容とこれまでに分かったことを紹介したいと思います。

事前申し込みは不要です。皆さんの御意見なども  
お伺いしたいのでお気軽にお越し下さい



東京大学 大気海洋研究所

〒117-0054 千代田区船場4-1-5 電話 04-7136-6006(代表)

本事業は2011年度日本海洋学会青い海助成  
事業震災対応特別特の助成を受けています

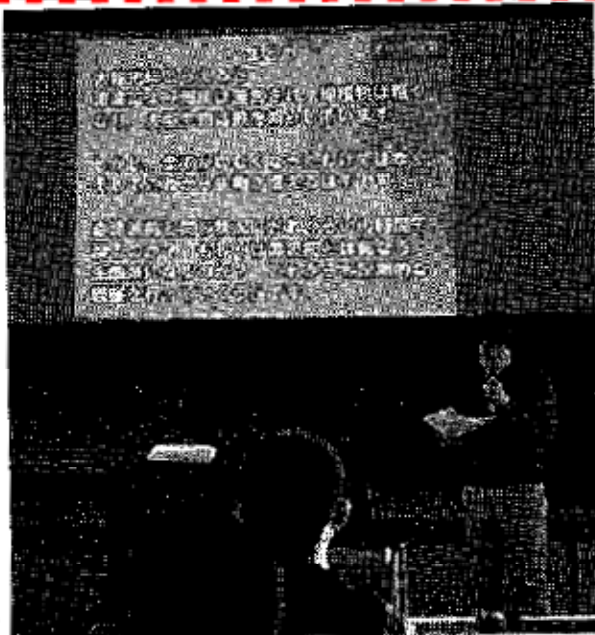
午後7時から。

一月26日

### 津波発生後の 海洋環境報告

#### 大槌でシンポ

東京大気海洋研究所と大槌町主催のシン



三陸沿岸の生態系に対する津波の影響や回復過程を報告したシンポジウム

ポジウムは17日、同町小鎮の町中央公民館で開かれた。研究者が、三陸の海洋環境や生態系に対する津波の影響、調査結果などを報告した。

研究機関関係者ら約40人が参加。大槌湾、船越湾の底質、底生生物への影響、宮古湾のニシン稚魚の生息環境など11テーマを発表した。車などがれきが海底に残っている映像や、津波の影響は少なく生物が成育できる環境が三陸に残っている調査結果が紹介され、参加者は熱心に耳を傾けた。

同町赤浜の同研究所

国際沿岸海洋研究センターは津波で被災したため、千葉県研究所で活動している。漁業者向けに個別の研究報告なども行っている。同センターの福田秀樹助教は「全体の研究報告を通して、被害は異なるが、生態系の回復力の強さを感じた。数年後に津波の影響を受ける可能性もあるので継続して調査していきたい」と意欲を見せた。